

①「誰もが集い、交流し、新しい価値を創造する場」

1. 市民が訪れたいくなる仕掛けをつくる

○ 目的を持たずに訪れても何かに出会う、あるいは思いのままに憩いの時間を過ごすことのできる場とする。

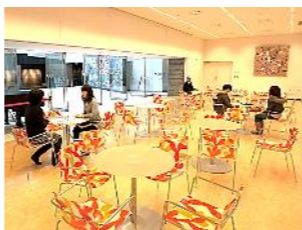
①市民の居場所 サードプレイスとなる

○ 誰でもが自由に利用でき、施設に入りやすく、一人でも多数でも、憩え、集える場を提供する。

注1: サードプレイスとは自宅や職場とは別の、個々人にとって居心地のよい第3の居場所  
注2: 右写真、アルフォーレの「音の遊具」は子供が弾いたり、叩いたり、音で遊ぶ仕掛けが盛り込まれた立体的な遊具。



柏崎市文化会館アルフォーレ 市民ラウンジ(音の遊具設置)  
写真は施設 HP より



いわき芸術文化交流館アリオス カンティーネ  
写真は施設 HP より

②一日中何かがあり、楽しめる場となる

○ 午前から夜まで、子どもから高齢者まで、楽しめたり、学んだり、何かがあり、一日中人が絶えない場としていく。  
○ 飲食などの機能も重要な要素である。

注: 久留米シティプラザでは「昼も夜も、子ども大人も“楽しい”がいっぱい」、「雨の日も風の日も、もちろん晴れの日も、朝から暗くなるまで、みなさまをお待ちしております」とし、両写真とも六角堂広場は6時から24時まで開放している。



久留米市久留米シティプラザ 六角堂広場  
■膜屋根をかけた屋外広場。様々なイベントが行われる。屋は段ボール遊具による遊び場に、夜は映画上映や角打ちバルなども開かれる。



富山県美術館 屋上庭園「オノマトペの屋上」  
■「子どもにとって、学びも遊びも芸術も、境界はない」とのコンセプトのもと、楽しいオノマトペを体感できる遊具が置かれた自由空間。

2. 多様な人々でにぎわう「新しい広場」となる

○ 屋外の広場やエントランスロビー等に加え、大ホールのホワイエもホール利用がなければ開放するなど、来訪者が自由に行き来できる多様な空間を設ける。  
○ こうした空間でイベントや展示等、様々な取組を展開していくことで、施設が多様な人々でにぎわう場となることを目指す。  
○ 施設全体が、社会包摂、多文化共生を実現していくための「新しい広場」となることを目指す。



小田原市小田原三の丸ホール  
■小田原城が眺望できる大ホールホワイエが利用の無いときは一般開放される  
両写真とも施設 HP より



リンカーンセンター ジョシー・ロバートソン・プラザ(公共空間)  
■3つの劇場に面している広場。様々なイベントが開催され、プラザ自体が観光施設となっている。  
両写真とも Lincoln Center for the Performing Arts 許諾

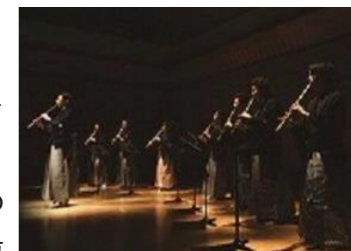


横浜市役所 アトリウム(3階部分までの大空間)  
■様々なイベントが開催されるが、定期的なコンサートの他、だれでもがピアノを弾きこなせるAIを使ったインクルーシブピアノの体験なども行われている。  
両写真とも施設 HP より



3. 全ての人を包摂し、創造的体験を提供する

○ 0歳から高齢者まで年齢にかかわらず、また、経験や障がいの有無に関わらず、創造的な体験をすることができる機会を提供する。  
○ 対象を細分化した質の高いプログラムの開発のほか、様々な特性を持つ人々が互いを理解・尊重し、対等な立場のもとに共通の目的を達成する体験などを推進し、それらを通じて社会包摂、地域共生社会の実現を図る。  
○ 被災経験の有無に関わらず、交流できる場づくりを行う。



横浜みなとみらいホール ミュージック・イン・ザ・ダーク  
■視覚障がいのある演奏家との合同メンバーによるアンサンブルが、照明をすべて消した暗闇の空間で演奏され、健常な人も、視覚以外の感覚を通して音楽を享受するコンサート。  
写真は施設 HP より



横浜みなとみらいホール 発達障がい支援ワークショップ & 保護者対象ワークショップ  
■発達障がいのある子どもたちの隠れた才能を引き出すために、音楽と拡張現実技術を使った映像のインタラクティブ・ワークショップ。  
写真は施設 HP より

4. 市民活動を支援し、これからのまちづくりの担い手を発掘・育成する

○ 「楽都」「劇都」を掲げる本市では、多くの市民が多様な文化芸術活動を展開し、まちに魅力をもたらしている。これらの担い手への伴走型支援や協働事業を推進するとともに、市民がこうした活動に出会う機会作りや、講座やワークショップ等による育成の取組を行う。  
○ 本市には、東日本大震災の経験と教訓を伝承する様々な市民活動がある。これらの担い手の連携と協働を支援するとともに、震災未経験の世代や学業や就業に伴い居住する方々なども日常の延長として参加したくなるイベントや学びの機会を創出する。



せんだいメディアテーク(smt) 企画・活動支援室  
■すべての人々がさまざまなメディアを通じて自由に情報のやりとりができるよう「手伝い」をする企画部門。個々の震災の体験を「表現」に繋げる「3がつ11にちをわすれないためにセンター(わすれん!)」やごみ減量と紙資源の循環をアートで訴求する「ワケあり雑がみ部」などユニークな取り組みを実施。



札幌市民交流プラザ・札幌文化芸術交流センター(SCARTS) アートコミュニケーター養成講座「ワークショップでつくる学びの場」  
■ワークショップでの学びがその後の日常に残っていくような、体験と振り返りの重要性についてなどを学ぶ。  
写真は施設 HP より

5. 事業展開の核となる人材を育てる

○ 文化芸術の総合拠点、災害文化の創造拠点としての使命を果たすとともに、複合施設としてこれまでにない価値を創出していくためには、質の高い事業を企画し、推進できる人材が施設内外に必要であり、多面的な人材育成の体制づくりに早期に取り組む。  
○ 文化芸術や災害に関する知識・ノウハウに加え、社会包摂、多文化共生社会、SDGsといった社会全体に係るテーマについても適切な知見を有し、両者を有機的に結びつけられる人材を育てる。  
○ 本複合施設単独での取組のみならず、各種機関と連携した人材の育成・交流を図る。



東京文化会館 国際連携企画ワークショップリーダー育成プログラム  
■東京文化会館では、ポルトガルの音楽施設「カーザ・ダ・ムジカ」と連携し、2013年から独自のミュージック・エデュケーション・プログラムを立ち上げ、人材の育成と蓄積を図っている。  
写真はアーツカウンシル東京 HP より

## 複合施設の「目指す方向性」の実現に向けた具体策について(例示) ②

### ②「仙台を知り、磨き、仙台オリジナルの発信につなげる場」

#### 1. 3. 11を忘れず、今後の災害からの復興を支える施設となる

- 東日本大震災は、私たちの社会の強さ・弱さがどこにあるかを示し、都市や暮らしのあり方を見直す契機となった。震災復興過程では、音楽をはじめとした文化芸術が、ともに生きる力を与えてくれることを経験した。複合施設は、被災・復興の過程で得られた知恵や技術を全ての市民と共有し、今後新たな苦境に直面してもそれを乗り越えられる多角的な力を育むための拠点となることを目指す。
- 「仙台防災枠組 2015-2030」採択都市であり、防災環境都市を掲げる仙台ならではの災害文化の創造と発信を行う拠点となる。
- 3. 11に思いをいたし、その記憶・経験を次の世代へつなげていくための取組を、文化芸術の手法も取り入れながら行っていく。

##### 音楽の力による復興センター・東北

■東日本大震災の発災から2週間後、仙台フィルハーモニー管弦楽団と市民有志により設立(現在は公益財団法人化)。3月26日に見瑞寺で行われた第1回復興コンサートを皮切りに、被災地における演奏活動を継続的に実施し、その開催数は1,000回を超えている。



##### 兵庫県立芸術文化センター

■兵庫県立芸術文化センターは、芸術・文化活動により、県民の心を元気に、生活に潤いを、人生を豊かにすることを目指し、阪神・淡路大震災からの「心の復興・文化の復興」のシンボルとして、平成17年(2005年)10月に開館。芸術監督佐渡裕。東日本大震災発災から1年間は、ほぼ毎月追悼の公演等を実施した。



写真は施設 HP より

##### 兵庫県立芸術文化センター スーパーキッズオーケストラ こころのビタミン・イン東北

■同センターが設立したキッズオーケストラは、東日本大震災の被災地を何度も訪れている。2021年は釜石鶴住復興スタジアムを訪問、公演を行った。全国へのLIVE配信も行われた。

#### 2. 仙台のこれまでの歩みを知る場となる

- 仙台の今を創り上げてきたこれまでの歩みを学び、仙台が持つ資源を市民と共有し、未来に生かしていく。

##### ①災害の足跡を知る

- 仙台は、歴史上、記録があるだけでも869年の貞観地震、1611年の慶長三陸地震などにより大きな津波被害を受けてきた。しかし、先人が石碑や伝承に残した警鐘は現代人には十分に伝わっていなかった。一方、1978年の宮城県沖地震の経験により、ブロック塀の除去やライフラインの強靱化、建物の耐震化などの対策が進行した。災害に関する歴史や災害が社会に与えた影響を知り、今後の備えに繋がる効果的な展示などの方策を検討する。
- 災害の発生は完全には予測できず、また同じ規模やパターンで起こるとは限らないことから、過去を知りつつ、変化する社会に応じた対策を常に更新し、それを市民の共通理解としていくための仕組みづくりに取り組んでいく。

##### ②仙台の文化芸術分野における先人の功績を振り返る

- 今日の仙台の文化芸術を築き上げた先人の功績を市民が共有できるようにし、同時に、現在行われている取組を拾い上げ、未来に向けて継承していく仕組みをつくる。

##### 海鋒義美先生の功績を顕彰する会

■2022年、市民有志により、仙台の音楽振興に貢献した作曲家・海鋒義美氏の没後25周年記念事業(作品・資料展示会、演奏会。会場は日立システムズホール仙台など)が開催された。



##### 東京文化会館音楽資料室

■開館以来の自主・貸館事業全ての公演記録がアーカイブ化され、検索ができる。

#### 3. 仙台ならではの創造的発信を市民とともに行う

##### ①「楽都」をはじめとする蓄積された文化資源を磨き上げる場となる

- プロフェッショナル、アマチュアを問わず、これまで蓄積してきた文化資源をさらに磨きをかける創造環境・機会を提供する。
- 「楽都仙台」の中心的存在である仙台フィルハーモニー管弦楽団の活動の中核拠点となり、楽団をさらに市民にとって身近で、誇りに感じられる存在としていく。

##### ②市民が「災害文化」を創造し発信する仕組みをつくる

- 災害文化の創造の種である課題(困り事・悩み事)に対し、市民や企業、行政、研究機関など多様な層が自由に意見を述べ、創造的解決に導く仕組みを作る。
- 教育と連携し、学区単位での学びや活動を深めるとともに、全域に展開する仕組みを作る。



七郷小学校  
30年後の未来を想像する  
まちづくり  
■大学や企業と連携し、震災を直接知らない子供たちと、まちづくりを通じて復興を考える取組。

##### ③「文化芸術×災害文化」企画を展開する

- 災害をテーマとした作品創作や、文化芸術を介して災害文化を市民に広げていく取組などを、両分野に携わる市民の力も活かしながら推進する。

#### 4. 地域課題にアプローチする

- 福祉、教育、子育て、まちづくり、環境、ジェンダーなど様々な社会分野において、文化芸術を活用することで既存の施策とは異なる角度からのアプローチが可能となる。施設の外へと出向くアウトリーチなどを含め、文化芸術面から地域課題に向き合う取組を進める。
- 東日本大震災による生活環境の変化をはじめ、家族や就業形態の多様化、地域のつながりの希薄化などに起因して、孤独や引きこもり等様々な問題が顕在化している。文化芸術を媒介とした、個々人に即した支援、居場所づくりに取り組む。
- 多様性に配慮した防災計画づくりや自助・共助の仕組みづくりを支援し、災害弱者や外国人等を取りこぼさず災害に強く温かいまちの構築を目指す。



@世田谷パブリックシアター

##### 世田谷パブリックシアター ワークショップ「地域の物語」

■「老い」や「家族」など、日常の課題に市民が向き合い、15回程度のワークショップを経て舞台を創り、公演する。1997年の施設開館時から行われている。

写真は施設 HP より

#### 5. 最先端の技術を生かす

- 表現やコミュニケーション、展示や体験に係わる技術は飛躍的に進化をしており、既存の表現活動・啓発活動のあり方を大きく変革させる、全く新しい方法も誕生している。社会参加に障壁を感じる方が、これらの技術によって創造活動に積極的に参加することも可能となっており、最先端の技術を生かした活動の展開を目指す。



@T.Tairadate



@T.Tairadate

文化庁助成事業「共創型」による文化芸術の高付加価値化プロジェクト  
～クラシック音楽による先行モデル～アート×アート=∞～共創と共奏～  
■東京交響楽団の他プロオーケストラ7団体が実行委員会を形成し、デジタルアートと連携し、共創し、共奏する新しいクラシック音楽のコンサートを創作

写真は事業報告及び実効委員会 HP より

# 複合施設の「目指す方向性」の実現に向けた具体策について(例示) ③

## ③「ネットワークを形成し、市内外から人が訪れたいくなる場」

### 1. 広域から人を呼び込める価値を提供する

#### ①優れた文化芸術の鑑賞環境を提供する

- 生の音源に対する優れた音響性能の追求をはじめとして、音楽や舞台芸術の鑑賞環境を施設面でも事業面でも充実させ、市民はもちろんのこと国内外から注目され多くの人を訪れる施設を目指す。

#### ②全国主要文化施設との協働体制をつくり、質の高い発信を行う

- 単独では難しい企画制作も、全国の主要文化施設と連携・協働することで実現を図り、人材育成につなげるとともに、全国的な拠点としての施設の位置づけを獲得していく。

##### 全国共同制作オペラ

■文化庁の助成を得て、全国の主要な劇場等が高いレベルのオペラを新演出で共同制作するプロジェクト。過去、野田秀樹や森山開次などが演出してきている。

##### 新国立劇場との連携・協力協定

■2021年末現在、札幌文化芸術劇場や東京文化会館など7つの劇場が新国立劇場と公演や人材面での連携・協力の協定を締結している。

#### ③「災害文化」という価値を各地に広める具体策を提供する

- 災害文化が市民生活や企業活動、行政運営に役立つことを分かりやすく伝える広報ツールの制作や具体事例の提示などにより、地域特性に沿った災害文化の醸成と創造、社会への実装をバックアップする役割を果たす施設を目指す。

### 2. 周辺施設と連携し、青葉山エリアの価値・魅力を高める

#### ①周辺文化施設との共同企画を展開する

- 青葉山エリアにある文化施設等と連携を深め、それぞれ点としてだけでなく、面としても魅力を発信できるように取り組む。さらに、共同企画などにより、分野を超えた新しい創作活動が生まれる土壌をつくる。



##### せたがや文化財団・音楽事業部 異分野とのコラボレーション

■世田谷美術館や世田谷文学館をはじめ、区内の多様な文化施設や大学等と連携し、異分野コラボレーション企画を行っている。

画像は財団 HP より

#### ②他分野(観光、MICE、教育、まちづくり等)の施設・機関と連携する

- 複合施設として、青葉山エリアにある様々な施設や機関等と連携し、相互の施設の機能を効果的に発揮させるとともに、相乗効果による新たな魅力創出などに取組み、エリアとしての価値向上を図る。



##### 横浜みなとみらいホール

■音楽系大学だけではなく、経営系学部や企業等との連携にも積極的な施設であるが、立地する「みなとみらい地区」のエリアマネジメント、また地区を「ミュージックシティ」とブランディング化する取組みに積極的に関わっている。

画像は MM エリアマネジメント HP より

#### ③エリア内を回遊しやすい環境を整える

- エリアの環境を踏まえ、歩いて心地が良く安全な遊歩道といった歩行者動線の整備や、新たなモビリティのような誰もが回遊しやすい移動交通手段の導入などについて、エリア全体として検討する。



写真は豊島区役所 HP より @Hiroyuki Mayuzumi

##### IKEBUS(イケバス)

■池袋駅周辺の近いが、少し離れた4つの公園や主要施設を巡る。池袋駅東口と西口を基点とする2つのルートで周遊する。貸切運行もしている。電気バスで、2019年11月から運行を開始。

### 3. エリア外との回遊性を向上させる

#### ①都心部との回遊性を向上させる

- 都心部の商業施設や飲食店等との連携の仕組みづくりを進めるとともに、回遊しやすい交通手段・歩行環境の整備など様々な可能性について、エリア全体として検討する。

#### ②沿岸部との回遊性を向上させる

- 中心部で災害と復興の歴史を包含して学び、沿岸部で津波被害とその後の復興を実感する基本ルートを確立する。また、中心部拠点を基点に他市町沿岸部への周遊を促すパッケージ開発を検討する。

**JR 東日本**  
「駅長オススメの小さな旅」  
■地元の「旅達人」とともに楽しむ日帰りの小旅行の提案。地域の玄関口である駅から鉄道等を利用して各所に出向き、地域の歴史や魅力を楽しむ。



### 4. 市内外の施設・機関とネットワークを構築する

#### ①市内外のメモリアル施設・機関と連携する

- 東日本大震災の発災から既に11年が風化する中で、各地の伝承・メモリアル施設やネットワーク組織と共に諸課題を共有し、次の災害に備える仕組みを検討する。
- 震災のみならず他分野の施設・機関との巡回展実施などを通じ、展示や活動に係る知見を共有する。

#### ②災害文化のハブ機能を担う

- 災害関連分野のみならず、社会生活の基盤システムや他分野(文学、医学、地域デザイン、製品開発など)と「災害文化」を鍵に協働し、成果を広く発信する仕組みの構築を目指す。

#### ③市内・周辺自治体の文化施設と連携協力して文化振興施策を展開する

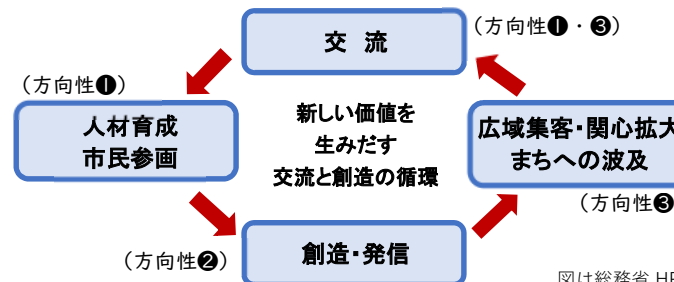
- 青年文化センター、せんだい演劇工房 10-BOX、各区文化センターなどの市内文化施設および周辺自治体の文化施設との役割分担を図るとともに連携、協力体制を強化し、仙台・宮城・東北の魅力のより一層の創出・発信につながる文化振興施策を推進する。

#### ④全国主要文化施設との協働体制をつくり、質の高い発信を行う 本資料1② 再掲

### 5. 交流と創造から都市の新たな価値を生み出す

- 多様な人々が集い、交流し、創造活動に参加し、魅力的な発信を行う。そのことが施設に人を惹きつけ、さらなる交流を促すという好循環により、都市に新しい魅力、価値を生み出す。

- こうした一連の取組によって、交流人口のみならず、仙台への愛着や人的つながりを持つ「関係人口」の拡大に寄与することを目指す。



図は総務省 HP より

